

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

日本会計コンサルティング株式会社

②事業者情報

名称：	上尾市立あたご保育所	種別：	保育所
代表者氏名：	柳川 菜穂子	定員(利用人数)：	125 名
所在地：	〒 362-0034 埼玉県上尾市愛宕 2 丁目23-22	Tel	048-774-8079

③評価実施期間

令和4年5月31日（契約日）～令和5年3月28日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

1. 園庭で子どもたちがのびのびと遊び全身を動かしての活動があります。

周りを樹々に囲まれており、土山と水溜まりがあり、自然がたくさんある園庭です。子どもたちは園庭内で、年齢を問わず全身を使って遊んでいます。子どもの走りたい気持ちを尊重し思い切り走り回れるようにしています。職員は子どもの遊びに対する要求が存分に満たされているのかを確認し子どもの姿を見守りつつ、年齢によっては一緒に遊びながら活動しています。土山に挑戦している子どもは、つま先から手の指まで使っています。年齢の大きいクラスではボールを使い、足腰をしっかり使って運動しています。

2. 園庭では子どもたちの自然な触れ合いがあり、異年齢児の交流が営まれています。

異年齢交流は、これまでは行事や日常生活の中で計画的に行っていましたが、コロナ禍になり、室内ではなく園庭での自然な交流を営むように時間帯を設けています。例えば、園庭の砂場においては、保育士が見守るだけでなく、一緒になって異年齢での遊びに混ぜられます。また、子どもがお互いに関わりを感じながらごっこ遊びを行っています。並行遊びや模倣行動など、異年齢児交流の良さが見られます。3歳以上児のクラスでは、一つの遊びから年上の子どもの姿にあこがれて模倣遊びをしています。異年齢児と一緒に遊んでいるからこそ何気ない言動を模倣する姿が生まれ、成長が図られています。

3. 職員の質の向上に向けて、人材育成に真摯に取り組み、職員の教育・研修の機会を確保しています。

保育所は、一人ひとりの人材育成に取り組んでいます。まず、新人育成については、ある程度の経験を積んだ先輩職員が、一定期間マンツーマンで新人の指導にあたる新人サポーター制度により、一年間、指導役との1対1の指導を行っています。先輩職員は直接的な業務以外にも、悩みを一人で抱え込んでしまいがちな新人の一番身近な相談相手としての役割も果たします。加えて、新人の目標設定、振り返り、フィードバックを先輩職員、主任、所長、法人がそれぞれ行い、園全体で新人育成に取り組んでいます。新人は様々な職員からフォローを受け、知識や技術の定着を目指します。こうした取り組みにより、人材の育成のみならず、新人の職場への定着を図っています。また、求められる職員像に基づき、研修計画を個人毎に策定しています。計画期間については、1年間の目標を設定し、職員が将来像を描きやすいよう人材育成に取り組んでいます。計画の策定と進捗の確認にあたっては、半年に1回の面談を実施し、進捗管理を行っています。研修計画に基づき、職員の研修参加機会を確保しています。

◇特にコメントを要する点

1. 子どもの姿と保育の取り組みを誰にも伝わるような情報発信に期待します。

コロナ禍でも行事を再開する、家庭との交流機会を創出するなど、工夫した取り組みが見られます。

しかし、保護者アンケートの結果から、保育の様子や園での子どもの様子がわからないなどの回答が一部ありました。保育の様子を「園だより」「クラスだより」として発信していますが、一部の保護者に伝わっていないようです。コロナ禍でも様々な工夫をして子どもの成長発達に取り組んでいますが、情報発信をさらに工夫されると、保育への安心感につながります。保育の様子や園での子どもの姿が十分に保護者に伝わるような取り組みに期待します。

2. 保育や行事実施後に行っている振り返りと次回の計画との連動が望まれます。

保育所では、市が定める市政の運営指針や子育て支援事業計画を踏まえた、当保育所の事業計画を策定しています。職員への周知にも努め保育所運営を一体となり行っています。定期的に進捗状況を会議で確認し、振り返りも行っています。保護者との日ごろのコミュニケーションにより意見を集計し、今後の課題も抽出しています。しかし、これらの所内外で集められた課題が認識するにとどまっていることが散見されました。今回の評価時の保護者アンケートの一部にも意見が反映されていないと取れる意見が寄せられていました。緊急性や重要性のあるものは即座に対応していますが、次の計画に反映されている事柄を確認することが出来ませんでした。取り組み後の会議やアンケート等を実施し課題を抽出していることは今回の調査時にも確認出来ています。それを次回の計画に加えたり、これまでの計画を見直したりすることが望まれます。市の方針や市内公立保育所との整合性ではなく、個別課題に応じた計画へと反映させていくことが待たれます。

3. 地域との繋がりの創出が求められます。

上尾市所長会や保育課からの情報提供により、地域の情報を取得しています。また、幼稚園・保育園・小学校の連携を目的として会議体を設けています。連絡会を実施予定でしたが新型コロナを理由に中止し、電話にて連携内容を確認しています。新型コロナによって中止を強いられているものもありますが、地域の関係機関や施設との連携に課題が見られます。子どもたちが卒園したら、そこで関係性が終わるという訳ではなく、その後も切れ目のない支援をしていくためにも、地域との連携や交流は必要です。地域社会との積極的な交流や保育に関する情報の発信など、地域との密な連携を図ることも重要です。子どもの生活がより充実したものとなるよう、地域との繋がりを創出していく活動が期待されます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

保育所運営から保育内容等について、客観的に評価、指導して頂いたことで、保育所で評価されていること、または改善が必要な点等に気づくことができました。この総評についての内容を職員間で共有し、さらにより良い保育運営ができるよう、取り組んでいきたいと思えます。評価されたところは保育所の良さと捉え、今後も継続していきたいです。また、公立園として地域に根差し、私立園との連携、地域のリーダー的存在となれるよう、保育課と協議しながらすすめていきたいと思えます。貴重なご意見をありがとうございました。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり